一緒にやるから、夢中になれる!

誰でも一緒に楽しめる「ふうせんバレー」を、市政だより編集部員が体験してきました。

▲続きはWebで!

私も挑戦!「ふうせんバレー」

障害のある人もない人も、スポーツ経験がある人も初心者も、一緒に楽しめます。チームの一員としてコートに立てば、誰もが一人の選手になれるんです。最初はレクリエーションっぽいのかな、と思っていましたが、参加すれば全員が熱くなれるスポーツだと実感しました。





ふうせんバレーってこんなスポーツ

1989年に北九州市で誕生しました。今では日本全国、そして世界の国々に広がり、親しまれています。バドミントンのコートとネットで直径40㎝の大きな風船を使い、障害のある人もない人も、子どもから高齢者まで一緒にプレーできる6人制のバレーボールです。

- 障害のある人とない人が同じチームに入る
- 全員が必ず1回風船に触れて、10回以内に返す
- コミュニケーションが欠かせない!

相手に合わせてつなぐ

いろいろな人が一緒にプレーする中で、どんなパスなら取りやすいかを考え、工夫するうちにチームワークが深まります。

ミスも得点も分かち合う

失敗しても「ドンマイ」と笑い合える。自分も得点につながるプレーに関われたという喜びはひとしおです。



みんなで楽しめるようにルールが工夫されています。

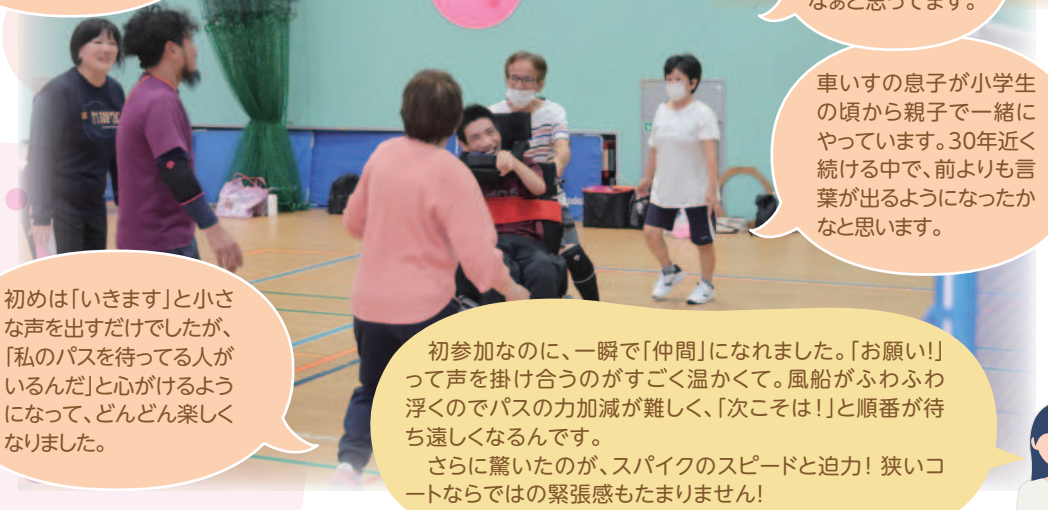
風船がつなぐ笑顔のバトン! プレーヤーが語るふうせんバレーの魅力



障害のある人が中心でもなく、障害のない人がサポート役に回るのでもなく、みんなで一緒にできる唯一のスポーツだと思ってます。



障害のある人への配慮が自然と身につき、勉強になるなぁと思ってます。



車いすの息子が小学生の頃から親子で一緒にやっています。30年近く続ける中で、前よりも言葉が出るようになったかなと思います。

初めは「いきます」と小さな声を出すだけでしたが、「私のパスを待ってる人がいるんだ」と心がけるようになって、どんどん楽しくなりました。

初参加なのに、一瞬で「仲間」になれました。「お願い!」って声を掛け合うのがすごく温かくて。風船がふわふわ浮くのでパスの力加減が難しく、「次こそは!」と順番が待ち遠しくなるんです。

さらに驚いたのが、スパイクのスピードと迫力! 狭いコートならではの緊張感もたまりません!



ふうせんバレーの中にある共存、共生のこころ

この競技を考案したのは、筋ジストロフィーを患っていた荒川さんです。重い障害があっても、障害のない人と対等に楽しめるスポーツはないかと考え、ふうせんバレーを生み出しました。全員が参加しなければ成り立たないルールは、当時としては革新的な発想だったと思います。

ふうせんバレーは人と人をつなげるもの。いろいろな違いのある人が、スポーツを通じて自然に出会い、支え合い、分かち合えることが醍醐味(だいごみ)です。



北九州市障害者スポーツセンター所長
有延忠剛さん

障害のある人とない人が共に楽しめるスポーツ

全員が参加しなければ成り立たないルールが特徴で、身体のどこを使えるかチームで考えて工夫しています。重い障害のある人にとっても、外に出て人とつながるきっかけになるスポーツです。

風船ならではの穏やかさだけでなく、アタックするスピードも速くて技術的にも楽しめるスポーツです。

年齢に関係なく続けられるので楽しみながら活動を続けています。

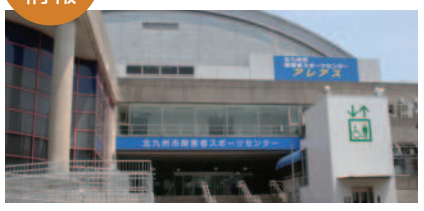


日本ふうせんバレー協会
村田ひろみさん

次は、あなたも。まずは「アレアス」にご連絡下さい。

施設情報

北九州市 障害者スポーツセンター アレアス



障害のある人もない人も、誰もがスポーツを楽しめる施設です。各種スポーツの体験や教室を行っています。

◀詳細はコチラ

小倉北区三郎丸三丁目4-1 ☎922・0026
開9～21時
休火曜日(祝・休日の場合は開館し翌日が休館)、年末年始

2027ジャパンパラゴールボール競技大会

迫力を見て実感!

入場無料

1月30日(土)・31日(日)
北九州市立総合体育館

ゴールボール男子日本代表をはじめ、海外チームを含む4チームが出場する国際大会が北九州市で開催されます。



©日本パラスポーツ協会

この特集に関するお問い合わせ 保健福祉局障害福祉企画課☎582・2453

対=対象 定=定員、定数 料=料金、費用 申=申し込み 問=問い合わせ 開=開所時間 休=休所日 手=手話通訳 要=要約筆記 F=FAX 担=市の担当課 共通=共通の内容